

若者のSNS利用傾向と問題点に対する対策の提案

The Proposal of a Measure on a Youth's SNS Use Tendency and Problem

池 村 努*

要旨

昨今SNSに関連したネットトラブルを多く目にするようになった。特にバイトテロでは「犯罪自慢」とも取れる内容を敢えて自ら投稿して炎上している。本稿ではなぜ「犯罪自慢」とも取られかねない投稿を自ら行うのか、どうすればこのような事態を防ぐことができるのかについて考察し、対策の提案を行う。

キーワード：SNS／ネットリテラシー (Net Literacy)／承認欲求 (Desire for Recognition)

I. はじめに

2013年に「バイトテロ」という言葉が話題になった。これは「アルバイトなどの店員がウェブ上に悪ふざけをした写真や動画などをアップロードし、それが炎上¹⁾して雇用している店舗や企業などに多大な迷惑を与える行為²⁾」を言う。ある蕎麦屋などでは、バイトテロがきっかけとして閉店をやむなくされた。このように多大な影響や、迷惑を掛けることになるバイトテロであるが、近年同様のケースが増加し続けている。

バイトテロの舞台として特に多く用いられるメディア（媒体）がSNS（Social Network Service）である。SNSは「IT用語辞典³⁾」の定義では「参加するユーザーが互いに自分の趣味、好み、友人、社会生活などのことを公開しあったりしながら、幅広いコミュニケーションを取り合うことを目的としたコミュニティ型のWebサイトのこと」とされている。具体的にはFacebook、mixi、LINE、ミニブログに分類されるTwitterが該当する。

SNSの中で、世界的な代表とも言えるFacebookは2004年にアメリカでサービスが開始され、2008年には日本でもサービスが提供され始めた。世界中で約10億人が利用し、日本での利用者数は2014年現在2,200万人で、人口普及率では

17.25%となり、普及が進んでいると言える。前年比でも1.6倍の利用者増となっている[アウンコンサルティング株式会社]。企業活動での利用も活発で、広報活動の他、就職活動の募集をFacebookで行う企業も出てきている。

日本発のSNSであるmixiも、Facebookと同じ2004年にサービスを開始した。当初は既登録者からの紹介がなければ加入できないシステムを用いていたことが特徴で、安心感のあるサービスとして受け入れられていた。ピークとなった2011年頃には、登録者数が2,000万人を越えたこともあった。芸能人の利用も多く、芸能人とのつながりを目的とした利用登録も多く見られたが、運営方法について利用者との間でトラブルが生じたためその後減少に転じ、2014年現在では1,300万人と言われている。

韓国企業NAVERの日本法人、LINE株式会社が運営するLINEは2011年からサービスを開始した。インスタントメッセージ⁴⁾とも呼ばれるサービスで、送受信者双方が同じアプリケーションソフトを通信端末にインストールしている必要がある。サービス開始後3年でユーザー登録数が全世界で4億人を越え⁵⁾、日本国内でも5,000万人を越える利用者がいる。また、企業のアカウントも増加して広報活動に用いるなど利用者が増え続けている。一方でセキュリティの問題から「LINEアカウント乗っ取り」が発生し、詐欺などの犯罪にも繋がっている。

* IKEMURA, Tsutomu
北陸学院大学 短期大学部 コミュニティ文化学科
情報科学

Twitterはミニブログとも呼ばれるコミュニケーションツールで、米Twitter社はSNSではないと主張している¹⁴⁾が、ここではSNSの一つとして取り扱う。2008年に日本語サービスの提供が開始された。投稿者は見聞きしたり感じたりしたことを140文字以内で「Tweet（小鳥のさえずりの意）」し、他のユーザーは投稿者の「Tweet」を「Reply」したり「Retweet」したりして感想を述べあう。日本では2,070万人が利用しており、芸能人のTweetを「Follow」する利用者も多く見られる。世界では2億人強の利用者がいる。

代表的なSNSサービスは以上の通りであるが、他にもGoogle+、YouTubeなどもサービスを運営している。上手に利用すればしばらく連絡が取れなかった友人とも交流を再開することができるなど便利なSNSであるが、一方でバイトテロやアカウントの乗っ取り、詐欺の舞台になるなど問題点も多くある。

本稿ではSNSに関連したトラブルについての例示と、傾向の分析、若者がなぜこのような行動に走ってしまうのかという原因の考察、そしてどのようにすればバイトテロのような行為を減らすことができるのかについて提案を行う。

II. SNSを介したトラブル

SNS利用に関連したトラブルについて「バイトテロ」を含め、いくつか類似の案件について概要を紹介する。

1 コンビニエンスストア・スーパーにおけるトラブル

(1) ローソン

2013年7月、高知県の大手コンビニエンスストアローソンにて、アルバイト従業員がアイスクリームケースの中に横たわった写真を携帯電話で撮影し、Facebookに投稿した。2ちゃんねる等で話題になり炎上し、ネット民¹⁵⁾によって個人が特定された。結果該当店舗はFC契約を解除された。

(2) ミニストップ

2013年9月、京都府の大手コンビニエンスストアミニストップにて、高等学校生徒がアイスクリームケースの中に横たわった写真を携帯電話で撮影し、Twitterに投稿した。2ちゃんねる等で話題になり炎上、ネット民によって個人が特定さ

れた。高校生は書類送検され、廃棄したアイスクリーム代を弁償した。

(3) カスミ（スーパーマーケット）

2013年10月、前橋市のスーパーマーケットカスミにて、専門学校生がアイスクリームのケースに寝転がった写真をTwitterに投稿。炎上した後投稿した個人が特定され、専門学校生は退学した。

2 飲食店におけるトラブル

(1) バーガーキング

2013年9月、東京のハンバーガーチェーン店で、廃棄予定だった大量のパンズに寝転がった写真をアルバイト従業員が撮影し、Twitterに投稿した。廃棄予定だったため損害は無かったが、パンズの発注ミスにより大量の廃棄予定が出たことも含めて店舗側は謝罪した。個人が特定され、東京都内の大学生は謝罪した。

(2) ブロンコビリー

2013年8月東京のブロンコビリーにて、アルバイト従業員が業務用冷蔵庫内に入り込んだ写真を撮影し、Twitterに投稿。炎上した後店舗は閉店、従業員は解雇された。

(3) 吉野家

2007年アルバイト従業員が、賄い食用に豚丼を盛りつける際、どんぶりからこぼれるほど大盛りにする様子を動画撮影し、「テラ豚丼」としてニコニコ動画に投稿した。これを見たネット民から非常識だという声上がり炎上、ネット民により従業員が特定され、吉野家は従業員を厳重注意したことを報告した。

3 その他SNSに関連したトラブル

(1) ファミリーマート

2014年9月大阪のファミリーマートで、店員の接客態度に腹を立てた客が、土下座を強要し店舗の商品を要求した。客の一人がその様子を携帯電話のカメラで動画を撮影し、自らTwitterに投稿。その動画を見たネット民に特定され逮捕に至る。

(2) USJ（ユニバーサルスタジオジャパン）

2013年7月、神戸大学や同志社大学の男子学生がUSJのアトラクションで禁止行為をくり返し、業務妨害を行った。業務員から注意を受けても反

省せず、その様子をTwitterに投稿するなどした。学生達は威力業務妨害で書類送検された。

他にも威力業務妨害として書類送検された案件が多数有る。いずれも共通しているのはSNSに自ら、あるいはその代理人が投稿していることである。一般的な感覚からすれば、反社会的行為を

行った場合、できるだけ目立つことを避けるようにすると思われるが、これらのケースでは自ら公表していることが特徴である。類似する事例について発生日・概要・当事者の属性・利用されたSNSの種類について表1にまとめる。

表1 SNS にまつわるトラブル事例（一例）

発生日	概要	トラブル当事者の属性	利用されたSNS 媒体
2007.7	食材を大盛りに盛りつけ※	アルバイト従業員（大学生）	ニコニコ動画
2010.5	殺害予告	社会人	Twitter
2011.6	傷害事件の予告	社会人	Twitter
2012.3	バスジャック予告	高校生	Twitter
2013.3	居酒屋の厨房でキャベツの葉をお面に見立て、タバコを吸う	アルバイト従業員（大学生）	Twitter
2013.7	コンビニエンスストアのアイスクリームケースに寝る※	アルバイト従業員	Facebook
2013.7	テーマパークで威力業務妨害※	大学生	Twitter
2013.8	業務用冷蔵庫内に入り込む※	アルバイト従業員	Twitter
2013.8	ラーメン屋で加工前の食材を口にくわえる	アルバイト従業員（高校生）	Twitter
2013.8	蕎麦屋の食器洗浄機に入り込む	アルバイト従業員（大学生）	Twitter
2013.8	家電量販店で展示品の洗濯機に入り込む	客	Twitter
2013.8	醤油さしの注ぎ口をくわえる	客	Twitter
2013.9	ネズミ取りにかかったネズミを商品と一緒に撮影	アルバイト従業員	Twitter
2013.9	コンビニエンスストアのアイスクリームケースに寝る※	客（高校生）	Twitter
2013.9	廃棄予定のバンズに寝る※	アルバイト従業員（大学生）	Twitter
2013.10	公園のプールにフェンスを乗り越え不法侵入	高校生	Twitter
2013.10	スーパーのアイスクリームケースに寝る※	専門学校生	Twitter
2013.10	地下鉄の線路に降りて記念撮影	高校生	Twitter
2013.10	衣料品店で希望する商品がなかったことに腹を立て店員を土下座させる	社会人	Twitter
2013.12	電車内で全裸の写真を撮影	社会人	Twitter
2014.3	殺人予告	短大生	Twitter
2014.5	殺人予告	大学生	Twitter
2014.7	爆破予告	高校生	Twitter
2014.9	コンビニストア店員を恐喝※	社会人	Twitter

※は本稿で紹介した事例

Ⅲ. SNS投稿のリスクに関する考察

表1でわかるように、Twitterを利用した投稿が極めて多い。このことからTwitterを揶揄して

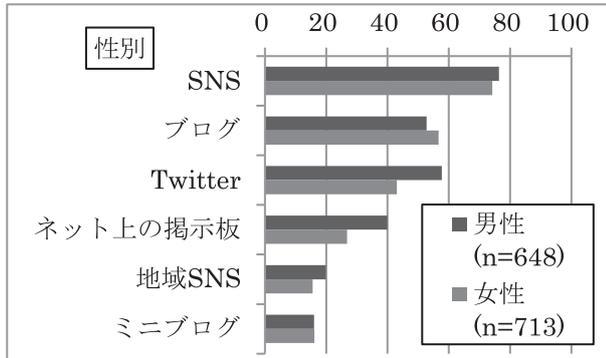


図1 SNS男女別利用状況

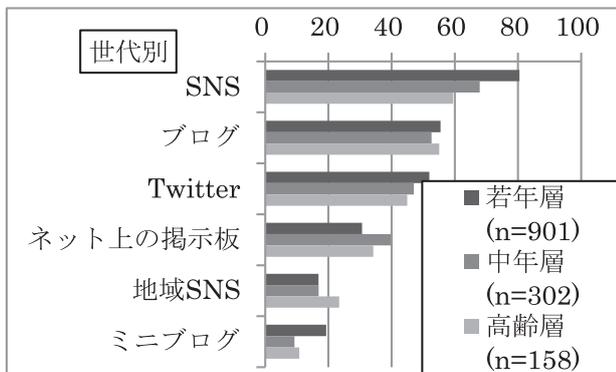


図2 SNS世代別利用状況

(出典) 総務省「次世代 ICT 社会の実現がもたらす可能性に関する調査」(平成 23 年)

「バカ発見器」「バカッター」とする表現も産まれている。これをSNS利用者の割合と比較してみる。総務省が2011年に行った調査では図1、図2のような結果になっている。SNSの中にはFacebookやmixiが含まれているため、総数が多くなっている。図2でわかるように、Twitter・SNS利用者は若年層^①に多く、表1で見られるように高校生から大学生に至る年齢層が多く利用していることが読み取れる。FacebookとTwitterの利用者数の推移を図3に示す。Twitter利用者の急激な伸びと、Facebook利用者の伸びの傾向の違いが読み取れる。Twitterの特徴でもある携帯電話(スマートフォンを含む)から短文で投稿できる手軽さが、利用者の増加に繋がっていると考えられる。それぞれの違いとして、Twitterは短文投稿(Tweet)とそれを受けたRetweet、Replyで構成されていることである。利用者は互いに「Follow」することで投稿を読むことができる。また、芸能人や企業などのTweetをFollowすることで、情報を他のメディアに比較して優先的に得ることも可能となる。Facebookも同様に個人や企業の投稿をFollowすることにより情報を得ることが可能になる。また関心のある投稿には「いいね!」により、自分の好意的な意見を反映することや、コメントの記述、シェアによる共有などの機能も用意されている。

SNS国内利用者の増加を受けて、本学におけ

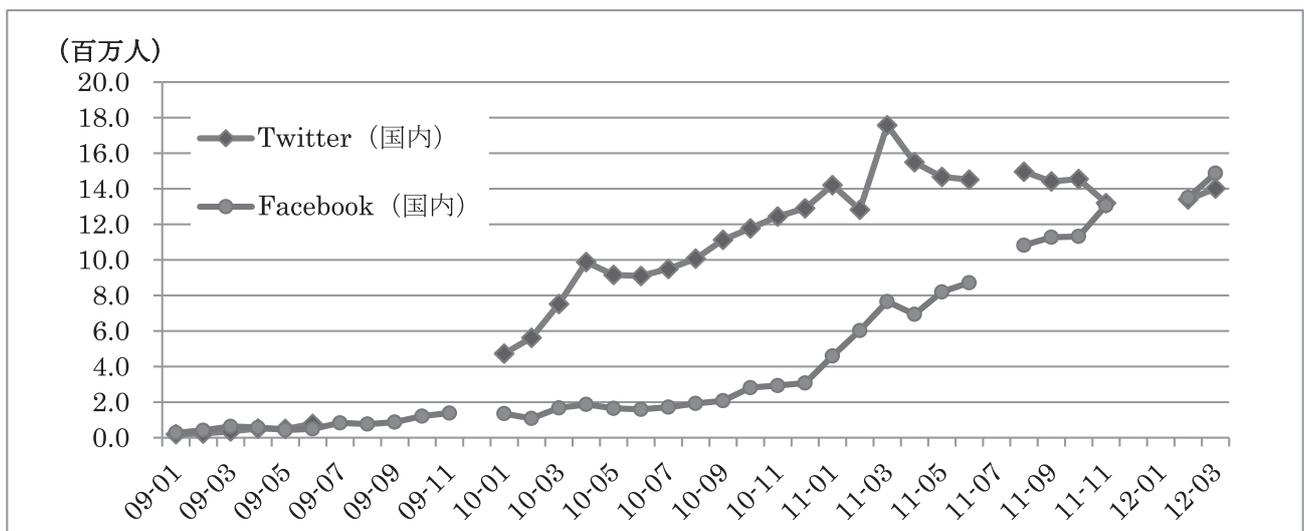


図3 我が国におけるソーシャルメディア利用者数の推移

※アクティブユーザー数を集計。ネットレイティングス社公表資料、各社公表資料及び総務省資料により作成。

るFacebook、Twitter、LINE等SNS利用の有無について実施したアンケート結果でも、96%の学生が利用していると解答した¹⁸。今回のアンケートではSNSの内訳について調査を行っていないため、どのSNSが一番多く利用されているかは不明で今後継続した調査を実施する。

連絡を取り合ったり、情報を共有したりする上で便利な面のあるSNSであるが、一方でインターネットを利用する上での問題点もある。一つは社会問題にもなっている「いじめ」の道具としての一面である。いずれのSNSも会員登録が必要なシステムになっている。会員登録した上でFacebookでは「友達申請」して繋がりを作り、互いの投稿が閲覧可能な状態を作り上げる。投稿された記事や写真は設定により公開する範囲を、大まかに分けると「①自分だけ②友達まで③誰にでも」という3通り、厳密には「②友達まで」が「親しい友達」と「それ以外の友達」に分けられるため、計4通りから選ぶことができる。LINEは基本的に1対1の関係を構築することになるが、グループを作成して登録することにより、同報できるシステムになっている。逆にTwitterについてはスマートフォンでダウンロードできるアプリでは公開する範囲を設定する機能がなく、初期状態ではFollowしている人以外の誰でも投稿を読むことが可能である。公開範囲を設定するにはパソコン上から行う必要がある。

それぞれに異なった特徴を持つが、いずれも閉ざされた空間を作ることが可能になることから、特定の人物に対する不満や悪口を書き連ねる場となっているケースが多く見られる。しかし厳密にはいずれも閉ざされた空間などではなく、設定次第で誰もが閲覧可能な状態になっていることを知らずに利用している可能性がある。例えばFacebookの場合、投稿範囲を「友達まで」とすることで限られた範囲で情報共有できたことになるが、友達による「いいね!」や「シェア」によって第三者に拡散されてしまうことに気づいていない可能性が高い。LINEでも転送機能が備わっているため、拡散しようとするればいつでも転送される可能性を有している。根本的な問題としてこれらは電子端末で使用するということがある。パソコンや携帯電話、スマートフォンを使用するSNSは、

インターネット上で利用されている。インターネットは電子媒体であり、電子媒体の特徴として複製が容易であるということが上げられる。一旦ネット上にアップロードされた情報は、誰が見ているかわからず、かついつの間にかコピーされている可能性があるということになる。さらに電子情報の場合、いくらでもコピーが可能で、事実上回収が不可能という問題が有る。また、GPS機能付きの携帯電話(スマートフォン)で撮影した写真には、位置情報が記録されていることが有り、写真を元にして住所が特定されることもある。実際、表1で例示したネットトラブルの多くは、投稿者自身は閉ざされた範囲内での「自慢話」のつもりで投稿したことが、広くネット民に知られるところとなり、炎上に至っている。炎上すると、投稿者の個人情報が暴かれ、場合によっては身内に影響が及ぶこともある。

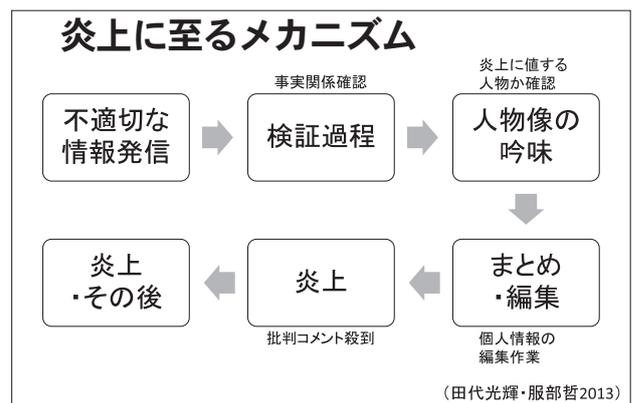


図4 炎上に至るメカニズム (田代光輝・服部哲)

炎上は反社会的投稿の後すぐに発生するのではなく、一定の時間を要する。SNSへの投稿が、転送や「いいね!」「シェア」によって想定した範囲から溢れることにより炎上へのレールに乗る。

表2 炎上のタイプ (中川淳一郎)

- ① 義憤型
- ② いじめ型&失望型
- ③ 便乗&まつり型
- ④ 不満&怒り吐き出し型
- ⑤ 嫉妬型
- ⑥ 頭を良く見せたい型

ここで重要なのは炎上させる側であるネット民の存在である。中川淳一郎は「ウェブを炎上させるイタい人たち」で炎上を6つのタイプに分類している。そして炎上はいずれも「無意味な暇つぶし」と断じている。

表1で例示したものは全てこの①～⑥のいずれかに該当しており、食品を無駄にしたケースや、反社会的行動に対して義憤に満ちた攻撃が行われたり、普段は直接苦情を言えないような相手に対して、匿名性を傘に攻撃が行われたりしたものである。また自分より良い生活を満喫していると思われる「リア充」*に対して嫉妬により攻撃が行われるケースもある。一方で上記のいずれかに該当していても、ネット民の関心を買わない場合には小規模の炎上で終わるケースもある。

炎上に至るには、2ちゃんねるやTwitter等でネット民による事実関係の検証が始まり、事実と断定された後に個人情報の特定制が行われる。勤務先、通学している学校が特定されたり、自宅や家族構成が特定されたりする場合もある。このころにSNSの投稿に対して非難する書き込みが開始される。ここで嫉妬の対象とならない場合炎上しないか、炎上しても小規模に終わることもある。この過程で投稿者自身が過ちを認めて謝罪などすれば炎上は納まるが、逆に自衛目的で反撃するなど攻撃的対応を取った場合には「火に油を注ぐ」結果になる事がある。義憤に満ちたネット民の場合、勤務先に電話(電凸)ⁱⁱをして反社会的行為を行なった者に社会的制裁を加えようとする事もある。このときインターネットのメリットである集合知が逆に作用し、たとえ少数の人が疑問に思うことがあっても、大きな流れに収斂していくサイバースカケードⁱⁱⁱという現象が生じて炎上を大きくするようである。

IV. SNSに投稿する心理についての考察

では投稿する若者達は「悪さ自慢」を目的に投稿するのだろうか。現代の若者達が反社会的行動を取りやすいかという点、羽瀨一代は「決して公共心がないとばかりもいえない」と否定的な見解を示し、むしろ「閉ざされた関係に安心感を抱く可能性がある」としている。ここから読み取れることは、若者達は仲間内での「仲良し関係」の延

長線上にこの問題の原因があるのではないかということだ。

「悪ふざけ」としてどこまで許されるのかについて、ここで論じることはしないが、少なくとも表1で紹介した事例ではほとんどの者が「これほど大ごとになると思わなかった」という感想を述べている。このことからSNSの広がりについて十分理解していなかった可能性が考えられる。

表3 SNS利用におけるリスク

個人情報流出に関する不安	42.4%
トラブルに関する不安	28.8%
ID乗っ取りに対する不安	15.3%
出会い系等の犯罪に対する不安	13.6%
複数回答可 (n=56)	

学生に実施したアンケートで「SNS利用におけるリスク(池村.2014)」について知っているかを聞いたところ、56名の回答者のうち73.2%が知っていると解答し、知っているリスクは表3のような結果となった。

明らかなように、学生達は個人情報流出について不安を感じている。本学では全学科の学生に対して入学時のオリエンテーションと、基礎科目である「情報機器演習Ⅰ」の中で情報発信のルールとそのリスクについて教育している。その一方で個人情報に繋がる投稿をそれと知らずSNSに対して行ってしまうことがある。ここで鍵となるのが「しゃべりすぎる失敗(杉浦由美子)」である。人は元来「承認欲求」を持っていて、「誰かから認められたい」という欲望がある。そこにブログやSNSといった自己表現の場所が提供され、誰もが情報発信者となる機会が与えられた。そのような環境でタレントたちがブログやTwitterで人気を博しているのを見た若者達が、見よう見まねで使い始めた結果、情報発信の仕方はわかっているものの、リスクマネジメントができていない投稿に繋がっているのではないだろうか。

またリスクマネジメントにおいて、SNSの特徴が関係していることも考えられる。例えばブログやホームページに投稿する場合、投稿者は何度でも読み返して、推敲の結果をネット上に公開す

ることになる。この場合は投稿内容を冷静に見直す時間が得られることで、反社会的な投稿を水際で止められる。一方でSNS、特にTwitterの場合、手軽に投稿できるという特徴が悪い影響を及ぼしていることが考えられる。140文字以内という制限があることから、投稿者は短文をすぐ送信することになる。その結果冷静に見直す時間を十分に取ることが出来ず、誤字脱字も含めて不用意な投稿を行ってしまうことに繋がる。Twitterの場合直接のFollowerでなくてもReplyすることが可能なため、突然「見ず知らずの第三者」から不躰な「糾弾の投稿」が届けられて感情的な反応を返してしまい、炎上に油を注ぐ結果になってしまう。

投稿者が仲間内だけで済ませるつもり「悪ふざけ」として投稿した内容であっても、インターネットの特性をしっかりと把握せずに投稿したことで、結果的に社会的制裁を受け、仕事を失ったり退学処分を受けたりすることになる。そもそも反社会的行為をしてはいけないことは論ずるまでもないが、わざわざ自分の恥を公開しないだけの知恵と教養を身につけるべきだ。

V. SNSトラブルを発生させないための対策提案

学生へのアンケートで「SNS利用でトラブルに遭ったことはあるか」を訪ねたところ、13%の学生が「ある」と答えている。どのようなトラブルだったのかは今後の課題とするが、少ない母数の中でこれだけのトラブル経験者がいることは、今後に備えて十分注意すべき事と考える。

何より反社会的行為を行わないことが第一であるのは間違いないが、ここまで見てきたように、SNSの特性を理解することが不注意によりネット炎上を招いてしまわないようにする次善の方法である。

反社会的行為を行わないようにするには、教養教育や道徳教育など初等教育に期待する部分が多い。その上でSNSの特性について理解を深め、交流を楽しむために、投稿時に注意すべき要点をまとめる。

- ・ 投稿時に一呼吸置き、問題が無いか確認する
- ・ 公開範囲が適切に設定されているか
- ・ 誤解を招く表現を用いていないか
- ・ 動画・写真に著作権を含む問題がないか

- ・ 写真にGPS情報が含まれている場合、撮影場所が特定されるので、GPS情報を付加しないよう設定されているか
- ・ 友人の写真を投稿する場合、当事者の了解を得ているか（肖像権）
- ・ 他者に返信するとき、感情的になっていないか
上記を守れば必ず安全を保証できると限らないが、最低限のマナーを守った投稿ができるようになると考え提案する。

VI. まとめと今後への展望

SNSの利用は今後も増えていくことが考えられる。その中にはネットトラブルに遭遇する可能性も少なからずある。本稿で触れたような反社会的投稿が原因の炎上事件だけでなく、一方的な思い込みにより非難された例も報告されている（中川淳一郎）。結果的に中川淳一郎は「ウェブはバカと暇人のもの」という表現を生み出し、「ネットに期待しても無駄」という考えに至っている。そして「ネット上に自分のことを晒してメリットがある人は以下の人だけ」として13のケースを挙げている。

- ① 著名人 ※ただし超大物は除く
- ② ITに詳しいと思われた人々
- ③ 自分のブログのアクセス数を伸ばしたい人
- ④ ネット関連サービス従事者でネットをもっともって使ってもらいたい人
- ⑤ とにかく宣伝をしたい人
- ⑥ 現実世界で特に失うものもない人
- ⑦ とにかく目立ちたい、自己顕示欲の強い人
- ⑧ 自己表現（笑）をとにかくしたい人
- ⑨ 誰かに見出してもらおうべく、宝くじみたい
に低い確率の博打に乗る覚悟がある人
- ⑩ アフィリエイトや商品モニターでお小遣い
稼ぎをしたい人（コンビニバイトよりもワ
リは良くないことを良しとする人）
- ⑪ とにかく寂しい人
- ⑫ 自分が一流だと信じたい一流になりきれない人
- ⑬ とにかく暇な人

学生へのアンケートで「SNSに対するイメージ」の答えとして「怖い」という印象を持つ者もいたが、「楽しい・世界が広がる・友人と繋がる

ことができる」等、ポジティブな印象を持つ回答が多く得られた。SNSを初めとしたWebサービスは21世紀になってから始まったものがほとんどであり、その歴史は長いものでも10年ほどである。有効な利用法を初めとして、安全な関わり方を学ぶことで新たな可能性が見いだせる。初等・中等教育の段階からSNSの特性を理解した教育を進めるべきだが、本研究をさらに深めて、高等教育の段階で可能な対応について検討を進める。

<注>

- i. 炎上：ブログ、日記、掲示板、SNSなどに批判コメントが殺到し、管理者が対処できないような状態に陥ることを指す
- ii. YOMIURI ONLINE 新おとな総研「SNSを使った「バイトテロ」」
(<http://www.yomiuri.co.jp/otona/life/law/20131008-OYT8T00515.html>) (2014.8.12)
- iii. IT用語辞典e-Words (<http://e-words.jp/>)
- iv. インターネット上で同じソフトを利用している仲間がオンラインかどうかを調べ、オンラインであればチャットやファイル転送などを行うことができるアプリケーションソフト。[IT用語辞典e-Words (<http://e-words.jp/>)]
- v. LINE株式会社[LIN]LINE、登録ユーザー数が世界4億人を突破(2014.4.2) (<http://linecorp.com/ja/pr/newsja/2014/713>)
- vi. CNET “Twitter’s not a social network?”
(<http://www.cnet.com/news/twitters-not-a-social-network/>) (2014.8.20)
- vii. インターネットのコミュニティを継続的に利用している人
- viii. 「若年層」は10代～30代、「中年層」は40代・50代、「高齢層」は60代以上
- ix. 短期大学生を対象に実施。有効回答数56名
- x. 「リアルな生活が充実している人」のスラング
- xi. 「電話での突撃レポート」のスラング
- xii. アメリカの憲法学者キャス・サンステイーンが『インターネットは民主主義の敵か』(石川幸憲訳、毎日新聞社、2003)の中で提唱した概念で、サイバースペースに於いて各人が欲望のままに情報を獲得し、議論や対話を行っていった結果、特定の－たいていは極端な－言説パターン、行動パターンに集団として流れていく現象のこと。

<参考文献>

- 荻上チキ (2007)『ウェブ炎上』株式会社筑摩書房
- 中川淳一郎 (2009)『ウェブはバカと暇人のもの』株式会社光文社
- 中川淳一郎 (2010)『ウェブを炎上させるイタい人たち』宝島社新書
- 小川克彦 (2011)『つながり進化論』中央公論社
- 杉浦由美子 (2012)『自分のことをしゃべりすぎる若者たち』.株式会社講談社
- 守屋英一 (2012)『フェイスブックが危ない』株式会社文藝春秋
- 田代光輝・服部哲著 2013『情報倫理』共立出版
- 北折充隆. (2013).『迷惑行為はなぜなくなるのか』株式会社光文社
- 志村文夫 (2013)『スマホ中毒症』株式会社講談社
- 守屋英一 (2014)『ネット護身術入門』朝日新聞出版
- 青少年とインターネットについて考える会 加藤千枝 (2013)『青少年女子のインターネットを介した出合の過程』社会情報学 第2巻1号 (pp.45～57)
- 尾上恵子 (2007)『女子学生の人間関係構築における諸要因について』一宮女子短期大学紀要 第46集 (pp.15～22)
- 鈴木英男.安岡広志.圓岡偉男.神野健.新島典子 (2012)『本人追跡性を基礎とする携帯電話の情報モラル教育』東京情報大学研究論文集 Vol.16 No. 1 (pp.23～32)
- 『総務省平成24年版情報通信白書』(<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc122310.htm>) 2014.8.20閲覧
- 『NAFORまとめ』(<http://matome.naver.jp/odai/2137689331847552401>) 2014.7.30閲覧
- 『アウンコンサルティング株式会社』(<https://www.aun-con.co.jp/>) 2014.7.30閲覧